

テキスト

森林太郎『鷗外全集』全三十八巻 岩波書店（1971-1975）

（引用部分の下線はすべて論者によるものである。）

参考文献

一、単行本

（時代順）

1. 生松敬三（1958）『森鷗外』東京大学出版社
2. 高橋義孝（1967）「森鷗外（一）」『日本文学全集 4 森鷗外（一）』森鷗外著 集英社
3. 山崎国紀（1989）『森鷗外—基層の論究』八木書店
4. 小泉浩一郎（1995）「森鷗外論」『卒業論文のための作家論と作品論』至文堂
5. 池内健次（2001）『森鷗外と近代日本』ミネルヴァ書房
6. 神澤秀太郎（2002）「鷗外歴史小説 よこ道うら道おもて道」文芸社
7. 山崎一穎（2003）『森鷗外・歴史文学研究』教文堂（初出：『佐橋甚五郎』攷『跡見学園女子大学 国文学科』第12号（伊藤嘉夫先生退任記念特輯）跡見学園女子大学国文学科）
8. 岬龍一郎訳（2003）新渡戸稲造著『武士道』PHP 研究所（底本は、『新渡戸稲造全集』（1969）第十二巻 教文館）
9. 長谷川松治訳（2005）ルース・ベネディクト著『菊と刀 日本文化の型』講談社（本書は1972年、社会思想社刊行された『定訳菊と刀』と底本としている。）

二、雑誌、紀要など所載論文

（時代順）

1. 長谷川泉（1951）「『歴史其儘』と『歴史離れ』—歴史小説としての作品『阿部一族』」『文学』第19巻第5号 岩波書店
2. 成瀬正勝（1956）「鷗外の歴史小説・伝記物について」『国文学 解釈と教材の研究』十月号 第1巻第4号 学燈社
3. 大野健二（1959）「森鷗外『殉死小説』の研究」『国語国文学』第3号 名古屋大学国語国文学会
4. 尾形侑（1962）「鷗外歴史小説の史料と方法—『興津彌五右衛門の遺

書』と『阿部一族』一」『東京教育大学文学部紀要：国文学漢文学論叢』第7輯 東京教育大学文学部

5. 清田文武（1970）「鷗外の歴史小説における人間像の形成－『待つ』『耐える』という契機を中心に－」『文藝研究』第64集 日本文芸研究会
6. 木村一信（1973）「『阿部一族』の世界－一つの視点」『日本文芸研究』第25巻第4号 関西学院大学日本文学会
7. 佐々木充（1979）「『阿部一族』論－〈自律〉ということ」『国語と国文学』第56巻第8号 東京大学国語国文学会編集 至文堂
8. 相原和邦（1979）「『阿部一族』の構成」『日本文学』第28巻第12号 日本文学協会
9. 小森美幸（1988）「『阿部一族』の世界」『日本文芸研究』第40巻第2号 日本文学会
10. 藤本千鶴子（1989）「鷗外における共同体と個－歴史小説『意地』三部作の構造－」『近代文学試論』第27号 広島大学近代文学研究会
11. 藤本千鶴子（1989）「『阿部一族』論－『気』と『意地』のドラマ」『竹盛天雄編 別冊国文学 森鷗外必携』第37巻 学燈社
12. 松代周平（1995）「鷗外『阿部一族』その事実志向の必然性について」『函館国語』第11巻 北海道教育大学函館国語会
13. 山崎一穎（1996）「『阿部一族』論－歴史の『自然』と歴史叙述－」『日本近代文学』第54号 日本近代文学会
14. 野村幸一郎（1998）「森鷗外『阿部一族』の方法」『国語と国文学』第75巻第2号 東京大学国語国文学会編集 至文堂
15. 秦行正（1999）「『阿部一族』論（一）－その殉死観をめぐって－」『福岡大学人文論叢』第31巻第1号 福岡大学総合研究所
16. 秦行正（1999）「『阿部一族』論（二）－その悲劇の構造をめぐって（上）」『福岡大学人文論叢』第31巻第2号 福岡大学総合研究所 P.1585
17. 秦行正（1999）「『阿部一族』論（三）－その悲劇の構造をめぐって（下）」『福岡大学人文論叢』第32巻第1号 福岡大学総合研究所